

# 台風被害を乗り越えて 何度でも立ち上がる

昨年の9月に台風15号と19号が千葉県を襲い、産地に甚大な被害をあたえました。産地ではこれほどまでの被害は初めてという生産者も多く、農作物の被害や、ビニールハウスの倒壊など、どれから手をつければいいのか、と困惑する生産者の姿がありました。

あれから1年、一時は農業をあきらめかけていた生産者の椎名さんご夫妻に、当時の様子や今の気持ちについて伺いました。



台風15号の被害の様子

## もうダメだ…と一度は農業をあきらめた

一年前がうそのような穏やかな畑の風景が広がる中、椎名さん宅に向けて車を走らせました。到着すると笑顔で迎えてくれる椎名さん夫妻。当時の話をさせていただきました。

千葉県は今まであまり台風の被害がなかったので今回も大丈夫だろう、という気持ちでした。でもその夜はあまりにも風の音が凄く、なかなか眠れず、朝急いで外を見ると想像を絶する惨状に。もうダメだ…と肩を落としました。年齢的にもこれ以上農業を続けていくのは無理だと夫婦で話しました。

## 支援の輪 そして若い頃の志を再び

台風後の10月末、コープの職員が被害のあった産地へボランティアとして手伝いに行きました。



ボランティアと一緒に午前中にビニールハウス2棟、午後には1棟と全部で3棟解体しました。



(農)多古町旬の味産直センター  
椎名さん夫妻  
（三枝子さん 友茂さん）

主にサツマイモを生産しています

ボランティアのお話を聞いたとき、ビニールハウスの解体は大変な作業なので、内心あまり期待していませんでした。でも皆さんは解体から片付けまで一生懸命作業をしてくれました。ビニールハウスの撤去作業も業者に頼むと費用もかかるうえ、いつになるかわからないという状況だったので大変助かりました。その日のうちに回収業者に渡すことができ、1日でこんなにしてもらい感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その夜私も体が痛く大変疲れたのですが、ボランティアの皆さんの頑張ってる姿が頭から離れず、なかなか寝付けませんでした。なんとかこの気持ちを形にして伝えたいと、その日のうちに手紙にしました。

手紙を書いていると農業に対する気持ちがよみがえり、始めた頃の志を思い出し、もう少し頑張ってみようかという気持ちがわきあがりました。

10月20日、ハウス壊しのボランティアに来て下さりまして皆様に本当にありがとうございました。10時過ぎには仕事を始め22時には、3棟のペタンコになったハウスを予定通り、きれいに壊すことができました。17名の皆様のフィンプレーに感謝です。私達夫婦、農業を始め24年、もう終業にしようかばかりに思っていました。皆様ののおかげで、農業を志した20年の「日本の自給率を少し上げよう」と夢をかけたことを思い出して「もう少しがんばりよう」と、美味しい野菜を作りたい誰かに喜んでほしいと前向きに生きることを考え直すきっかけになりました。仕事で疲れてはいるにもかかわらず遠方から年寄と遠慮をわけてボランティアに来て予定以上、活躍してもらって本当にありがとうございました。生きるパワーまでいただいき本当にありがとうございました。私達夫婦、もう少しがんばります。ごさいます。私達夫婦、もう少しがんばります。ごさいます。私達夫婦、もう少しがんばります。ごさいます。

## 私たちが作ったおいしい野菜を食べてもらいたい

台風後の組合員の皆さんによる「食べて応援」や「緊急支援募金」など、生協と産地の生産者とがネットワークでつながっていることを強く感じたそうです。

台風被害を免れたサツマイモをたくさんの組合員さんが購入し、励ましのメッセージを寄せてくださいました。私たちはおいしい野菜を作り続けて皆さんに食べてもらうことで、助けてもらったことへの感謝の気持ちを返していきたいです。お互いを想う関係が温かくありがたいなと感じています。

今は夫婦2人で無理せず、楽しく農業をしていこうと話しているんです。私たちは『楽農』って言ってるんです！何でも大変なことがありましたがその都度乗り越えてきました。何度でも立ち上がる場所は野菜も人間も同じですね。今年もまた台風が来るかもしれないので、早めに対策をするつもりです。



応援メッセージや産地支援の野菜を購入して応援!!



来年のためにこれからの台風に備え、サツマイモの苗床作りの準備をしていました



秋の実りを前に葉が青々と茂るサツマイモ畑

お話を聞いて、組合員の皆さんや職員の協力であらためて生産者が立ち直り農業に向き合うことができたこと、生産者の強さとひたむきさを感じることができたことを胸に、サツマイモ畑を後に帰路につきました。